



小さな政党の大きな目標

地方からこの国のかたちを変える
方が変われば國も変わる
まずは、地方を変えよう

本日（9月20日）午後から、市民向けの内覧会が開催される。私が市長時代（H20年4月～H24年4月）に策定した「新病院建設基本計画」に基づいた新病院が間もなく開院となることに感慨深いものもあるが、むしろ失望感の方が大きい。概算事業費が計画時点よりも3割以上も増高（75億円→100億円）したことや基本計画に明示されている救急医療（二次救急）に必要な医師を確保できていないからだ。負担（借金返済額）ばかり増えてサービス（医療）は低いままでは、到底市民の理解は得られないだろう。

時局自論 7

新病院（あがの市民病院）が間もなく開院
～新病院は阿賀野市の拠点病院としての自覚と責任
を持ってほしい～

地域政党日本新生代表
前阿賀野市長 天野 市栄

(2015年9月20日付け

ブログ要旨)



10月に開院する新病院（あがの市民病院）

阿賀野市のホームページによれば本日（20日）午後から市民向けの内覧会が開催される。私が市長時代（H20年4月～H24年4月）に策定した「新病院建設基本計画」に基づいた新病院が間もなく開院となることに感慨深いものもあるが、むしろ失望感の方が大きい。概算事業費が

計画時点よりも3割以上も増高（75億円→100億円）したことや基本計画に明示されている救急医療（2次救急）に必要な医師を確保できていないからだ。負担（借金返済額）ばかり増えてサービス（医療）は低いままでは、到底市民の理解は得られないだろう。現病院（水原郷病院）の実態については市政かわら版2号・3号を参照されたい。

さて、10月1日から現病院（水原郷病院）から新病院（あがの市民病院）へと移行するが、現病院のホームページに新病院移行後の外来診療担当表が掲載されている。この担当表から、診療科目ごとの常勤医師（*）を推計してみたら、以下のとおりとなった。

内科（7人）、糖尿病・生活習慣病センター（1人）、外科（2人）、心臓血管外科（0人）、整形外科（1人）、皮膚科（1人）、産婦人科（3人）、泌尿器科（0人）、眼科（0人）、神経内科（1人）、小児科（1人）、脳神経外科（0人）、耳鼻咽喉科（1人）

*常勤医師：週（月～金）に2回以上外来診療を担当する医師とする。ただし、同じ日の午前と午後を担当する場合はそれぞれ1回としてカウント。大学の医局からの派遣される医師は除く。

上記の常勤医師を合計すると18人になる。医師の大量退職で全国的なニュースになった平成18年頃は30人近い常勤医師が配置され救急医療（2次救急）をやっていたが、新病院の常勤医師数は当時の常勤医師数には遠く及ばない。また診療科目ごとに常勤医師をみても救急医療ができない病院であることが確認できた。心臓血管外科・脳神経外科の常勤医師はいなく大学医局からの派遣医師だ（それぞれ週1回）。また大怪我で搬送された救急患者を手術できる整形外科の常勤医師が1人しかいない。しかもこの医師は昼間だけの勤務だ。とても救急医療（2次救急）に対応できる診療体制にはなっていない。改めて新病院が老人病院として再スタートしたことを確認できた。

～新病院はできたけれども、今日も救急車は新病院を素通りして県立新発田病院に向かう。誰のための新病院建設か（建設工事を受注した県内ゼネコンの金儲けのため？）～※次号に続く。

（代表 天野 市栄）

（2015年9月22日付けブログ要旨）

現病院（水原郷病院）及び新病院（あがの市民病院）を運営するのは、厚生連（厚生農業協同組合連合会）だ。私が市長時代の平成22年10月に指定管理者制度を利用して、厚生連に水原郷病院の経営を委託した。民営化から5年経った本年10月1日からスタートする新病院については、とかく新しくなった建物（100億円の借金の山？）ばかりに目を奪われがちであるが、多くの市民が期待しているのは救急医療（2次救急）の早期復活だ。いざという時に役に立たない病院では話にならない。

ところで、私が市長に就任したばかりの平成20年頃の話に戻るが、前市長の本田市政の頃に老朽化した水原郷病院の建替えと経営赤字を解消するために、病院運営（経営）を厚生連に委託するという方向で市当局と厚生連との間で水面下での交渉が行われていた。また市議会の全員協議会の場でも、市当局から新病院は市が建設し病院経営は厚生連に任せるという、いわゆる「公設民営化」の方針が示されていた。一方、郷病院の運営を引き受ける立場にあった厚生連からは当初、新病院ができた後に病院運営を引き受けるつもりでいた。しかし当時、市の財政状況（＊）は悪化していたし、もともと赤字体質の病院経営が医師の大量退職後（H18年～）に更に悪化し、毎年数億円の赤字を出して、その都度、一般会計予算から赤字補てん（財政支出）を行っていた。

当時、新病院を建設するには2つの条件をクリアーする必要があった。一つは、実質公債費比率（一般財源に占める借金返済額の割合）を、県知事の許可がいらない18%以下に引き下げる（平成20年当時の実質公債費比率は20.4%）。もう一つは病院経営の赤字を解消すること（病院事業会計を黒字にすること）。第1の条件は当時、市が取り組んでいた財政健全化計画（＊）を前倒しすることで達成できる目途が立ったが、第2の条件は当時、水原郷病院の事務長を派遣してもらっていた厚生連の理解と協力がないと達成できないものだった。特に第2の条件については、運営委託先の厚生連に懇切丁寧に事情を説明した結果、厚生連から理解と協力が得られ、新病院を建設する前の平成22年10月に「民営化」が先行して実現した。

* 平成20年当時の市の財政状況

私が市長になった頃は、過去に高い金利で借りた市の借金を繰り上げ償還し毎

年の借金返済額を減らす「財政健全化計画」に取り組んでいた。私が市長に就任した平成 20 年度の実質公債費比率は 20.4%。市が借金をする場合、県知事の許可が必要な状態だった。この実質公債費比率を引き下げたことにより、必要な公共投資（学校施設の耐震化工事、水原中学校の建替え、新病院の建設など）の財源が確保できた。※次号に続く。

（代表 天野 市栄）

（2015 年 9 月 23 日付けブログ要旨）

現病院（水原郷病院）及び新病院（あがの市民病院）を運営するのは厚生連だ。私が市長時代の平成 22 年 10 月に指定管理者制度を利用して、厚生連に水原郷病院の経営を委託した。本年 10 月 1 日からスタートする新病院については、とかく新しくなった建物（100 億円の借金の山？）ばかりに目を奪わがちであるが、多くの市民が期待しているのは救急医療（2 次救急）の早期復活だ。いざという時に役に立たない病院では話にならない。市は約束を守った。次は厚生連が約束を守る番だ。

10 月 1 日からスタートする新病院は、私が市長時代の平成 23 年度に策定した「新病院建設基本計画」に基づいて建設されたものだ。この「新病院建設基本計画」の策定にあたり、行政当局（市・県）、指定管理者（厚生連・水原郷病院）、新潟大学医学部（医師派遣元）、医師会・市内民間病院などで構成される「新病院建設検討委員会」を立ち上げた。私がここで強調したいのは、「新病院の建設基本計画」が新病院を建設する立場にある市の幹部職員と現病院及び新病院を運営する立場にある厚生連の幹部職員・水原郷病院の院長がメンバーに入って取りまとめられた計画だという点である。そしてこの「新病院建設基本計画」には、新病院においては救急医療（2 次救急）を目指すということが明記されている。

市は「新病院建設基本計画」に基づき新病院を建設するという約束は守った。次は厚生連が約束を守る番だ。第一義には、救急医療（2 次救急）に必要な常勤医師を確保する責務は厚生連にある。新病院を建ててもらったから医師確保（常勤医師の増員）は終わりにしてもらっては困る。現病院及び新病院を運営する厚生連は、医療法上、県立・市町村立病院などの自治体病院と同様に公的医療機関に位置付けられている。公的医療機関は、本来、救急医療を行うことが予定されている病院であるが、残念ながら現病院及び新病院は公的医療機関としての使命を果たしていない。

人口 10 万人あたりの医師数が全国最低クラスにある新潟県の実情を考えれば、医師確保が容易なことではないことは充分に理解できる。それならば、まずはできるところから始めてもらいたい。新病院になつたら早期に「救急告示指定病院」の看板を掲げてほしい。救急告示指定病院は 2 次救急病院とは異なり、病院の診療可能な範囲で急患を受け入れる病院ということだ。阿賀野市周辺市町村の状況を調べると、阿賀町にある県立津川病院は常勤医師が水原郷病院よりもはるかに少ないにもかかわらず救急告示病院になっている。五泉市では南部郷総合病院など 2 病院、新潟市秋葉区では下越病院など 2 病院、新潟市北区（旧豊栄市）では常勤医師数が郷病院とほぼ同じ厚生連豊栄病院も救急告示病院だ。阿賀野市内に救急告示病院が一つもないという状況は許されることでない。（詳しくは市政かわら 3 号を参照）

最後に、一市民の立場で市当局にも強く申し上げたいことは、市民に負担（借金返済）ばかり押し付けて、いざという時（救急時）に役に立たない病院なら、いらない。

～誰が返すのか新病院の借金（約 100 億円）。こんな街には住みたくないと言つて若者はこの街を出ていく。こんな街には生まれたくないと言って子どもが減っていく～（先ごろ、新潟県から公表された「平成 26 年の市町村別の合計特殊出生率」では、阿賀野市は 1.16。全国平均（1.42）、県平均（1.43）にも遠く及びない。しかも県内 30 市町村のなかでは、出雲崎町と並んで最下位となっている。）

※この項終わり

（代表 天野 市栄）

